







会 告

学会・CPD 入会キャンペーン実施中	81
平成 19 年度農業土木学会賞候補の推薦について	81
平成 19 年度日本農学賞候補の推挙について	81
土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」の改定について.....	81
Historical Heritage II : People Who Promoted Land and Water Resources Development in Japan の刊行について ..	82
農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い.....	82
農業土木技術者継続教育機構による通信教育の本格運用について.....	83
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の 配布について.....	83
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局（投稿先）の韓国移転のお知らせ ..	84
農業土木学会誌への投稿お待ちしております！.....	85
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう！！「農業土木学会誌」平成 19 年夏季用の表紙写真の募集	86
新シリーズ「水利遺産探訪」の原稿募集.....	86
平成 18 年度東北支部総会・第 50 回研究発表会並びに第 40 回支部研修会・第 30 回地方講習会について 	87
第 57 回関東支部大会講演会の開催 	88
第 35 回中国四国支部研修会・第 30 回地方講習会の開催について（第 2 報） 	89
九州支部第 29 回地方講習会・第 37 回支部研修会の開催について 	91
平成 18 年度九州支部講演会（第 87 回）・シンポジウム開催について（第 2 報） 	92
平成 18 年度農村道路研究部会研究集会および現地研修会のお知らせ 	93
農業土木学会論文集第 244 号内容紹介.....	94
学会記事	99

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業土木学会ホームページに掲載の「農業土木学会誌投稿要項」、
「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

第 74 巻 9 号予定

展望：政策ツールとしてのほ場整備：雑賀 幸哉

小特集：圃場整備と農業生産法人

創造的な大区画圃場を目指せ：藤崎 浩幸他

奥州市胆沢区の圃場整備地区における集落営農推進上の課題：上條 雄喜他

傾斜地の不整形な受託水田における農業機械の作業時間特性：細川 雅敏他

圃場整備における暗渠排水計画の問題とその解決事例：千葉 克己他

広島県における「集落農場型農業生産法人」について：角保 彰紀

技術リポート

北海道支部：地域整備プラン作成のためのワークショップの実施 北海道富良野市麓郷地区の事例：三上 園子

東北支部：DJM 工法（粉体噴射攪拌工法）によるため池の盛土安定対策について

関東支部：農業集落排水処理施設の維持管理への水質分析の利用と汚泥について：小山 聖史

京都支部：ブロックマットによる排水路護岸について：杉本 達哉他

中国四国支部：地域住民参加型の親水空間の創出：和木 繁

九州支部：老朽化した掘込み式ゴムシートライニング貯水池の改修事例：中村志保


講座：水土文化への誘い（その 7）水土文化の集め方 聴き方：山下 裕作





















小講座：農業生産法人：中村 康明

私のビジョン：ほ場整備事業と地域力：舛谷 雅広

農業土木学会（本部）行事の計画

農業土木学会（本部）行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 18 年 9 月 1 日	資源循環研究部会	平成 18 年度研究発表会	 人、家畜、農村をとりまく資源循環の構築を目指して（仮題）	パシフィコ横浜	74巻7号
平成 18 年 9 月 7 日	畑地整備研究部会	第 45 回畑地かんがい研究集会	 土土に沿った畑作と畑地かんがい	いわて県民情報交流センター	74巻7号
平成 18 年 9 月 7 日～8 日	農村計画研究部会	第 28 回現地研究集会	 水士で築く豊かな環境 阿蘇の取り組みに学ぶ	熊本テルサホテル	74巻6号7号
平成 18 年 9 月 26～27 日	農地保全研究部会	第 27 回研究修会	 環境と調和した農地保全	北見芸術文化ホール	74巻65号
平成 18 年 10 月 11～12 日	九州支部	第 29 回地方講演会 第 37 回支部研修会		佐賀市アバンセ	74巻6号8号
平成 18 年 10 月 15 日	土壌物理研究部会	第 45 回研究集会	 期待される土壌物理学（仮題）	北海道大学（予定）	
平成 18 年 10 月 24～25 日	九州支部	第 87 回支部講演会・シンポジウム		ウエルシティ宮崎	74巻7号8号
平成 18 年 10 月 25 日	北海道支部	第 56 回研究発表会		帯広市とかちプラザ	74巻7号
平成 18 年 10 月 25～26 日	東北支部	支部総会・第 50 回研究発表会 第 40 回支部研修会・第 30 回地方講習会		山形県高度技術開発センター	74巻7号8号
平成 18 年 10 月 26～27 日	関東支部	第 57 回支部講演会		前橋市	74巻6号8号
平成 18 年 10 月 26～27 日	中国四国支部	第 61 回支部講演会		米子コンベンションセンター	74巻6号7号
平成 18 年 11 月 1～2 日	農村道路研究部会	平成 18 年研修会		プラザ万象（敦賀市）	74巻8号
平成 18 年 11 月 9 日～10 日	京都支部	第 63 回支部研究発表会		大阪リバーサイドホテル	74巻5号7号
平成 18 年 11 月 15～16 日	中国四国支部	第 35 回支部研修会 第 30 回地方講習会		松山市男女共同参画推進センター	74巻7号8号
平成 18 年 11 月 16 日～17 日	水文・水環境研究部会	第 19 回シンポジウム	 農林地および広域の水文・水環境	島根大学	74巻5号
平成 18 年 11 月 22 日	北海道支部	第 33 回研修会		札幌市北大学術交流会館	
平成 18 年 11 月末	農業水利研究部会	平成 18 年度研修会	 （未定）	東京都	
平成 18 年 12 月（予定）	応用水理研究部会	講演会	 （未定）	（未定）	
平成 19 年 2 月 1 日	北海道支部	講習会		札幌市北大学術交流会館	
平成 19 年 2 月（予定）	材料施工研究部会	第 44 回シンポジウム	 構造物の損傷に関する非破壊探査（予定）	兵庫県神戸市（予定）	
平成 19 年 3 月	水土文化研究部会	シンポジウム	水土文化研究の現在（仮題）	つくば農林団地（予定）	

学会・CPD 入会キャンペーン実施中

(社) 農業土木学会・農業土木技術者継続教育機構

農業土木学会(学会)および農業土木技術者継続教育機構(CPD 機構)では、平成 18 年 6 月 6 日～9 月 30 日の間“入会キャンペーン”を実施しています。キャンペーン期間中、学会の正会員および学生会員に入会された方、および学会と CPD 機構に同時入会された方に、下記の割引特典があります。この機会には是非ご入会をお願い致します!

キャンペーン期間 平成 18 年 6 月 6 日(火)～平成 18 年 9 月 30 日(土)

特典内容

A) 学会に新規入会した正会員の平成 18 年度年会費を半額とします

9,600 円 キャンペーン特価 4,800 円(66 歳以上は 2,400 円)

B) 学会および CPD 機構へ同時入会された正会員には、さらに CPD 機構への入会金 1,000 円を免除致します

* 入会時に同時入会である旨お知らせ下さい

(通常) 9,600 円 + 1,000 円 + 2,500 円 = 13,100 円

学会年会費 機構入会金 機構年会費

(キャンペーン特価)

4,800 円 + 1,000 円 + 2,500 円 = 7,300 円

学会年会費 機構入会金 機構年会費 (66 歳以上は 4,900 円)

C) 学会に新規入会した学生会員には、農業土木標準用語事典の購入価格を割り引きします

(学部学生の場合)

通常：学会年会費 2,500 円 + 用語事典 4,500 円 = 7,000 円

キャンペーン期間：学会年会費 2,500 円 + 用語事典 2,300 円 = 4,800 円

(大学院生の場合)

通常：学会年会費 5,500 円 + 用語事典 4,500 円 = 10,000 円

キャンペーン期間：学会年会費 5,500 円 + 用語事典 2,300 円 = 7,800 円

入会方法はお電話、または E-Mail にて下記へお問合わせ下さい。

社団法人農業土木学会 会員担当 花塚 賀央

☎03 3436 3418 E-Mail hanatsuka@jsidre.or.jp

農業土木技術者継続教育機構 吉本 峰子

☎03 5777 2098 E-Mail mineko@jsidre.or.jp

平成 19 年度農業土木学会賞候補の推薦について

平成 19 年度の農業土木学会賞(上野賞, 沢田賞を除く)を、第 74 巻 6 号, p 69 の募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切りは、平成 18 年 10 月末日となっております。推薦書様式は学会 HP をご参照下さい。

平成 19 年日本農学賞候補の推挙について

平成 19 年度日本農学賞の候補を本誌 74 巻第 7 号, p 98 の推薦取扱規程に則って、ご推薦下さい。締切りは、平成 18 年 9 月 15 日

です。

土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」の改定について

このたび、標記土地改良事業計画設計基準が改定され、平成 18 年 6 月に発行されました。判型、ページ数、販価は下記のとおりです。ご希望の方は下記までお申込下さい。なお、改定の趣旨は 74 巻 7 号 pp 61～62 を参照下さい。

記

1 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」

A4 判 約 300 ページ

定 価 3,500 円(消費税内税, 送料学会負担)

2 申込方法

農士誌 74(8)

役所等で、公用として購入される場合

FAX でお申込下さい。様式は問いません。

ご希望部数、送付先住所、請求書の宛名をご記入下さい。

個人、会社で購入される場合

現金書留：書籍代と書籍名、冊数を書いた文書をご同封下さい。

郵便振替(00160 8 47993): 振替用紙の通信欄に書籍名、冊数をご記入下さい。

3 申込先

Historical Heritage :People Who Promoted Land and Water Resources
Development in Japan の刊行について
学会創立 70 周年記念出版「水土を拓いた人びと」英語版

学会創立 70 周年記念出版「水土を拓いた人びと」の英語版 (同書中の 10 編) が、このたび刊行となりました。

本書は北海道から沖縄までのわがふるさとの先達たちが、よりよき国土を築くために果たした功績を整理し残していくことで、これからの発展の礎とすることを目的として編まれたものです。このたび英訳されたものは、この中から下記のような 10 編となっております。

記

1 A4判 104 ページ

2 定 価 1,900 円 (消費税内税, 送料学会負担)

3 目次

Part 1 Wisdom based on "Land and Water"

Wisdom based on "Land and Water", the Foundation for a Paradigm Shift Historical Study of the "Wisdom based on Land and Water"

Part 2 Historical Heritage: People Who Promoted Land and Water Resources Development in Japan

Comprehension and Management of Land Water Resources;

・ KUMAZAWA Banzan Harmonizing Universe and Human Being in Promoting Soil Conservation and Flood Control Works
Comprehensive Development Centering on Agricultural Water Use;

・ O'HATA Saizo, A Pioneer of Irrigation Engineering Who

Built A Number of Irrigation Systems

・ NONAKA Kenzan and OGURA Shosuke and Sansei, Who Endeavored to Develop New Paddy Fields in the TOSA-HAN

・ NARIDOMI Hyogo Shigeyasu, Who Built Irrigation Systems in SAGA-HAN and Laid the Foundation of Agriculture in SAGA

Technologies for Farmland Development;

・ FUJII Juzaburo, Who Promoted Land Consolidation and Integrated Rural Development

・ OGAWA Gombe, Who Opened New Paddy Fields in Polders by Contract with CHOSHU-HAN

・ TOMITA Jimpei, Who Developed the Subsurface Drainage System, still Extensively Being Used

Organization of People Engaged in Land and Water Development;

・ IZUMI Rintaro; Founder of the Water Users' Association and Forerunner in the Enactment of the "HOKKAIDO DOKO-KUMIAI Law"

・ NINOMIYA Sontoku, A Pioneer in Renovating Irrigation Canals and Reclaiming Wasteland Encouraging Farmers' Initiatives

・ O'HARA Yugaku, Founder of the World's First Agricultural Cooperative

農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い

農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しました。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害、に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備することとしました。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるように、事前に皆様方の登録をお願い

しておくことといたしました。登録を希望された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則 2~3 日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業土木学会が後日精算する(年

度予算限度額 300 万円)

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業土木学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

専門分野： 水理， 水文・気象， 土壌物理， 土質， 地質・地理， 環境， 地域（農村）計画， 一般， 灌漑排水， 農地造成， 農地整備， 農地保全， 水産土木， 材料・施工， 農業機械， 集落排水， その他

なお、登録頂いた個人情報は、災害対応調査団にのみ活用し、適切に取扱います。

農業土木技術者継続教育機構による通信教育の本格運用について

農業土木学会行事企画委員会

農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育の試行を平成 18 年 10 月まで延長することとしておりましたが、11 月より本格運用することといたしました。いつからでも参加可能です。是非、通信教育にご参加いただきたく、お願い申し上げます。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会員の方は、農業土木学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX (03 5777 2099) でお送り下さい。

これまで試行に参加いただいていた会員は、改めてお申込いただく必要はありません。

なお、この機会に農業土木学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込みください。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

事務局は、機構の評価委員会内部に設置する部会および機構事務局が担います。

4. 内容

3 カ月前の学会誌の報文を主体に、機構通信教育部会が作成した問題を毎号学会誌に掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7 割正解で 1 CPD、満点で 1.5 CPD が与えられ、継続教育記録として自動的に登録されます。

回答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 費用

通信教育参加費は無料です。

なお、本誌に継続教育機構の広報ページ「CPD ニュースレター」を掲載しています。是非ご参照ください。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

農業土木学会では、2003 年 1 月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会「国際水田・水環境工学会」; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2006 年 3 月末には Vol. 4, No. 1 (Special issue: Challenges and Opportunities for Sustainable Rice based Production Systems) が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理，水収支，灌漑施設，栽培管理）
- ② 排水（排水管理，排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良，土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発，水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節，地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生，陸生動物植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）
- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換，施設園芸）
- ⑩ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 馬目宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは, 学会 HR (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお申込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局(投稿先)の韓国移転のお知らせ

農業土木学会では, 2003年1月に日本, 韓国, 台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国国際機関等と連携して, 新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立し, 機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊, 2006年3月末には Vol. 4, No. 1 (Special issue: Challenges and Opportunities for Sustainable Rice based Production Systems) が発刊されました。

我が国においても学術誌の評価に, SCi (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており, 本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また, 世界13カ国から Editor (14名) を選出することにより, 国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし, さらに国際的な流通を考慮して, 国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は, Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに, SCI 獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが, 投稿料, 掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

編集事務局の移転: 2003年1月の学会設立以来, 農業土木学会が編集事務局を担って参りましたが, 2006年1月1日からは新 Editor in Chief; 中野芳輔九州大学教授の下, 韓国農業工学会が今後3年間(～2008年12月31日まで), 編集事務局を担当することとなりました。

これに伴い, Editorial Panel の構成メンバー(編集体制)および新投稿先が下記ようになります。

ただし, 2005年12月末までに投稿された原稿は, 日本(農業土木学会)の責任において進められ, Acceptされたものが韓国事務局へ引き渡されることとなっております。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

新投稿先: PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG
International Society of Paddy and Water Environment Engi-

neering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は, 水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等 である。

編集体制 2006 .1 .1 ~ 2008 .12 .31)

• Editor in Chief : Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironment Sciences, Kyushu University, Japan

• Editors 13カ国から14名

• Editing Board 32名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN) Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社：Springer Verlag 社（ドイツ）

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載しています。

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！

農業土木学会誌編集委員会

学会誌 75 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)	原 稿 締 切 (刷 り 上 り 4 ページ 厳 守)
74 巻 9 号 圃場整備と農業生産法人（仮）	公募終了	
10 号	公募なし	
11 号 モニタリング技術の最前線（仮）	公募終了	
12 号 北海道における大規模畑地整備（仮）	公募なし	
75 巻 1 号 「水土の知」について（仮）	公募なし	平成 18 年 8 月 15 日
2 号	公募なし	
3 号 新潟県中越地震の復興対策と危機管理（仮）	平成 18 年 9 月 25 日	平成 18 年 11 月 15 日

今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集がテーマは仮題となっておりますものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、**刷り上り 4 ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 (社) 農業土木学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail henshu@jsidre.or.jp

75 巻 3 号テーマ「新潟中越地震の復興対策と危機管理（仮）」

新潟中越地震は農村地域に甚大な被害を及ぼした。地震発生から約一年半以上が過ぎた現在でもなお、仮設住宅で生活する人は未だに多く、旧山古志村では全住民 690 世帯のうち避難解除 1 年を迎えた今も帰宅した住民は 114 世帯にとどまっている。中山間地の農地の復興対策も進められてきたが、被害状況の甚大さから完全な復興には至っていない。阪神淡路大震災が都市型の災害であったのに対して中越大震災は農村地域に起きた震災であり、農業・農村対策にとって多くの問題を提起している。

農業土木学会でも、中越地域の災害復興研究に強い関心を持ち、

緊急調査等の支援体制をとるなど新たな体制整備が行われてきた。また、農業土木分野においても、中越地震に関する研究があらゆる視点から精力的に行われている。

本号ではこのような状況をふまえ新潟県中越地震における危機管理と復興対策と題して特集いたします。新潟県中越地震以降、行政あるいは産学で行われてきた危機管理、今後の復興対策に関する研究、今後懸念される農村地域での地震に備えた提言等に関する報文の投稿をお待ちしております。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、**刷り上がり 1 ページ**（1,800 字程度）で、写真を 1 ~ 2 枚程度入れてください。

私の勤める本は、原稿の長さ：1,200 字（写真・体裁等含む刷り上がり 1 ページ以内原稿には表紙の写真を含めて下さい）

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!
「農業土木学会誌」平成19年夏季用の表紙写真の募集
農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成19年も皆さまからの写真で表紙を飾ることとしました。テーマは「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で、学会誌第75巻(平成19年1~12月号)のうち、特に夏季の表紙写真を募集します。ふるってご応募ください。

記

1. 趣旨

これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むことで、その美しさに磨きがかかってきます。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言わべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で、「先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」を、学会誌の表紙写真でご紹介ください。

2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで六ツ切り。デジタルカメラの場合はJPEGファインモードまたはTIFFモードに設定し、撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、そのことを明記してください。

3. 枚数

応募写真には制限がありませんが、未発表のものに限ります。

4. 締切 平成18年9月29日(夏季の写真)

5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、今年は募集す

る季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

6. 審査

審査委員会(編集委員と写真家)で選びます。

7. 結果発表

学会誌75巻1号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成19年度大会会場でパネル展示します。

8. 賞品

入選作品1点につき3万円(表紙掲載料含む)。応募者には記念品をお送りします。

9. 応募資格

学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧めください。

10. その他

応募写真の裏面にタイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ等)を記入して下さい。対象物の名称(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明(いつ、だれが、どうして等)もお寄せ下さい。

原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、(社)農業土木学会に属します。

11. 宛先

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4(社)農業土木学会
 農業土木学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

新シリーズ「水利遺産探訪」の原稿募集

農業土木学会誌編集委員会

農業土木学会誌ではこのたび新シリーズ「水利遺産探訪」を開始し、第1弾として会員の松本精一(財)建設物価調査会総合研究所部長が投稿された「(京都の)桂川「一の井堰」物語」を掲載しております。つきましては、本シリーズに掲載する原稿を広く会員の皆様から募っておりますので、奮ってご投稿いただくようお願い申し上げます。

わが国では、古来、先人の知恵と努力により多くの農業土木に関係した水利施設が造成されてまいりました。「温故知新」という言葉がありますが、「農業土木」を改めて知るために、ふるき水利遺産をたずね、先人の歩んだ道をふりかえることは重要なことであると考えています。そして、ふるき水利遺構にこめられた先人の「水土の知」を、未来で活かしていくための「未来へのメッセー

ジ」としてまとめていきたいと考えております。

また、海外協力の分野においては、土地改良区を中心とする日本の灌漑排水システムが良きモデルとして注目されており、海外で日本の経験を如何に適應させるかが求められています。そのためにも、我々の先人の知恵と経験を他国で活用できるように整理することが必要になっています。

農業土木学会では、過去、「水土を拓いた人びと」を発行した他、石狩川、北上川等の各水系農業水利誌（史）を発行してまいりました。今回のシリーズでは、会員の方に親しまれる内容のものを目指したいと考えており、取り上げる内容についても、構造物だけに限らず計画や人物などに焦点をあてたものも含めて幅広いものにしていきたいと考えております。

ご投稿は会員の皆様께서書きやすい任意のテーマでお願いします。シリーズ名は「水利遺産探訪」ですが、「排水」や「干拓」に関連したものや、比較的最近のものを扱っていただいてもかまいません。お近くや過去携わったことのある水利施設等をテーマに気軽にご投稿下さい。

なお、投稿は何時でも受け付けておりますが、今回の京都の次は「江戸の水利遺産・遺構」がテーマのものを先ず掲載したいと考えています。分量の制限はございませんが、分割して掲載させていただくこともありますので、あしからずご理解頂ければ幸いです。

皆様の多数のご投稿をお待ちしております。

平成 18 年度東北支部総会・第 50 回研究発表会
並びに第 40 回支部研修会・第 30 回地方講習会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 期 日 平成 18 年 10 月 25 日（水）、26 日（木）

2. 会 場 山形市 アルカディアソフトパーク内 山形県高度
技術研究開発センターほか
〒990 2473 山形市松栄二丁目 2 1
Tel 023 647 3130

講師：佐藤 友二氏（因幡堰土地改良区）

12：00～13：00 昼食・休憩

13：00～15：20 第 30 回地方講習会

「農業農村整備事業におけるアスベスト（石綿）対応マニュアル（仮称）」の解説」

講師：農林水産省農村振興局 設計課
施工基準班

1 名称が変更される場合があります。

「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針」

講師：農林水産省農村振興局 事業計画課 環境計画班

15：20～15：30 閉 会

本大会は記念大会として開催し、山形県における農業農村整備事業の取り組みを紹介する「パネル展示コーナー」や、県産品の直販ブースとして「ふれあい交流広場」を設営いたします。

3. プログラム

< 第 1 日目 > 10 月 25 日（水）

(1) 総会並びに研究発表会

9：00～9：30 受 付

9：30～10：15 支部総会

10：15～10：45 支部賞受賞式

10：45～11：00 休 憩

11：00～12：00 記念講演「地域活動から市民への育ち合
い」 講師：沼野 慈氏（地域活動家）

12：00～13：00 昼食・休憩

13：00～17：00 第 50 回研究発表会

(2) 情報交換会

18：00～19：30 会場：「山形国際ホテル」

（会場までバスを運行します。）

< 第 2 日目 > 10 月 26 日（木）

(3) 支部研修会・地方講習会

9：00～9：30 受 付

9：30～9：40 開会挨拶

9：40～12：00 第 40 回支部研修会『美しい農村 やまが
たにて発見』

「イザベラ・バードと山形」

講師：竹田 又右衛門氏（川西町教育長）

「地域住民と一体になった美化活動の
実践」

4. 講演申込みと参加費振込先

平成 18 年度の大会全般を山形県が担当しますが、研究発表会のプログラム編集は山形大学が担当します。

そこで、『参加申込み・参加費納入先（A）』と『研究発表申込み（B）』が、それぞれ下記のように異なりますので注意してください。

A. 参加申込み・参加費納入先

(1) 参加費内訳

総会並びに研究発表会

3,000 円（学生会員 2,000 円）；資料代含む

支部研修会並びに地方講習会

7,000 円（非会員 8,000 円）；テキスト代含む

情報交換会 5,000 円

昼食 1,000円(1食分)[大会1日目は山形名物いも煮などを用意します。]

(会場周辺には食事をするとところがございます。基本的に昼食をお申ください。)

申込書式(東北支部開設のホームページよりダウンロードできます)により所属機関ごと一括して、Fax, Emailまたは郵送にて申込みください。

(2) 申込み及び問い合わせ先

〒990 2473 山形県山形市松栄一丁目7-48

山形県土地改良事業団体連合会 総務部 総務企画課(武田諭 又は 浅野はるみ)

☎023 647 5371 / FAX 023 647 5391

Email: stakeda@sanae.or.jp

(3) 参加費の振込先

銀行名 山形銀行 県庁支店(店番号113)

口座番号 普通 997528

加入者名 農業土木学会東北支部大会運営委員会 代表 高橋久一

手数料は振込者負担をお願いします。

(4) 参加費の納入と取り消し等

参加費の納入は、申込みと同時に銀行振込で全額納入してください。

なお、参加取り消し等による参加費の返金には応じかねますので、ご注意ください。

(5) 参加申込み期限

平成18年9月20日(水)

[宿泊希望の場合は平成18年8月31日まで]

B. 研究発表申込方法

(1) 講演申込み/問い合わせ先について

講演要旨集原稿に投稿票を添えて、下記へお申込みください。

い。

〒997 8555 山形県鶴岡市若葉町1-23

山形大学農学部 安中 武幸(あんなか たけゆき)

☎0235 28 2903 / FAX 0235 28 2901

E-Mail: annakt@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

(2) 要領

原稿の書き方・投稿票については、下記東北支部開設のホームページをご覧ください。

書式がダウンロードできます。

(3) 発表時間・発表手段

発表時間は15分以内(発表12分、質疑3分)

発表補助手段(パソコン使用可(Power Point, CD-R, RW およびUSBメモリ使用可))

(4) 講演申込み受付期間

平成18年8月7日(月)~9月4日(月)【締切厳守】

5. 会場までの移動手段について

会場まで公共交通機関がありませんので、山形駅・山交ビルの2箇所から送迎バスを運行します。乗車場所と乗車時間については下記の東北支部開設のホームページをご覧ください。

・タクシーの場合 JR山形駅から約4km 10分程度

・自家用車の場合 山形自動車道山形蔵王ICから約7km 15分程度

山形中央自動車道山形中央ICから約4km 10分程度

・山形空港の場合 山形空港から約30km 車で1時間程度

6. 宿泊について

県外参加者のために、大会事務局で若干ホテルを確保してあります。

東北支部大会の最新情報は下記ホームページでお知らせいたしますので、ご活用ください。

<http://www.tr.yamagata-u.ac.jp/~ohkubo/sibu.html>

第57回関東支部大会講演会の開催

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



第57回農業土木学会関東支部大会講演会を10月26日(木)及び10月27日(金)の2日間、群馬県前橋市において下記の要領で開催いたします。

多数のご参加をお待ちしております。

1 主催: 社団法人農業土木学会 関東支部

後援: 農林水産省関東農政局, 群馬県

2 大会および講演会

(1) 日 時 平成18年10月26日(木)

受付 9:00~10:00

支部大会 10:00~11:00

講演会 11:00~17:00

(2) 会場 群馬県市町村会館

受付 2階 大研修室入口前

支部大会 2階 大研修室

講演会 同上

【会場問い合わせ先】

群馬県市町村会館

〒371 0846 前橋市元総社町335番地の8

☎027 290 1366

<http://www.12.ocn.ne.jp/~g-ctv-ka/>

3 情報交換会

(1) 日 時: 平成18年10月26日(木) 17:30~19:30

(2) 会場: ウェルシティ前橋(前橋市古市町1-35-1)

4 現地研修会

- (1)日 時：平成 18 年 10 月 27 日（金）
 8：50 集合（JR 新前橋駅西口）
 9：00 出発 15：00 解散（JR 高崎駅）

- (2)コース（予定）
 勢多郡富士見村 防災ダム事業 富入沢地区
 利根郡みなかみ町 中山間総合整備事業 新治中部地区，
 たくみの里他

5 講演会，情報交換会および現地研修会の参加申込み方法

- (1)申込み
 「第 57 回農業土木学会関東支部大会講演会参加申込書」に必要事項をご記入し，所属機関ごとに取りまとめの上，FAX または郵送にてお申し込みください。

郵送にてお申し込みの場合は，コピー（控え）をとっておいてください。

支部大会もしくは講演会のみ参加の場合においても，申し込みをお願いします。

- (2)申込み期限
 平成 18 年 8 月 31 日（木）

- (3)参加費
 講演会 6,000 円（昼食代 1,000 円含む）
 * 近隣に食事場所が少ないため。
 情報交換会 5,000 円
 現地研修会 5,000 円（昼食代 1,000 円含む）

- (4)会費の納入方法
 参加申し込みと同時に下記「会費の振込先」に全額前納し
 てください。
 なお，申し込み後のキャンセル・変更については 8 月 31
 日（木）以前の申し出に限りまして，振り込み手数料等の実
 費を差し引き返金いたします。
 *9 月 1 日（金）以降のキャンセルにつきましては応じかね
 ますので，ご了承のほどよろしく申し上げます。

【留意事項】
 * 送金手数料は，各自にてご負担願います
 【会費の振込先】
 群馬銀行 県庁支店（普通）0541836
 フリガナ：ノウギョウドボクガツカイカントウシブタイカイ

ジムキョクチョウ ワカタベ ミツル
 名称：農業土木学会関東支部大会 事務局長 若田部 満
 * 振り込み元が判別できるよう所属，氏名等をご記入くださ
 い。

- (5)申込み先および問合わせ先（事務局）
 〒371 8570 群馬県前橋市大手町一丁目 1 番 1 号
 群馬県 農業局 農業基盤整備課 技術調査グループ
 事務局（担当 渋川，松井，根津）
 ☎27 226 3163 FAX 027 224 8744
 E mail：sibu r@pref.gunma.jp

- (6)申込み様式
 第 57 回農業土木学会関東支部大会講演会参加申込書

ふりがな 所属名			電話番号		
ふりがな 申込者氏名			FAX 番号		
所属所在地	〒				
ふりがな 参加者氏名	大会講演会 (10月26日) 出席・ 欠席×	CPD 番号 (農業土木 技術者継続 教育機構)	情報交換会 (10月26日) 出席・ 欠席×	現地研修会 (10月27日) 出席・ 欠席×	銀行振込者所 属・氏名
<例> 群馬太郎		123456789			県 課 国定忠次

* 講演会，情報交換会及び現地研修会の欄は，出席： または欠
 席：×を記入してください。

6 その他

- (1)会場への案内
 大会講演会：JR 新前橋駅西口より徒歩 5 分
 情報交換会：JR 新前橋駅東口より徒歩 3 分
 * JR 新前橋駅までは JR 高崎駅から JR 上越線・両毛線で 9
 分
 (2)宿泊場所
 宿泊場所の斡旋は行いませんので，各自でご手配をお願いし
 ます。
 * 参考 前橋市役所ホームページ・宿泊施設一覧
 URL [http://www.city.maebashi.gunma.jp/ctg/07400114/
 07400114.html](http://www.city.maebashi.gunma.jp/ctg/07400114/07400114.html)

第 35 回中国四国支部研修会・第 30 回地方講習会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



中国四国支部第 35 回支部研修会・第 30 回地方講習会を 11 月
 15 日（水），16 日（木）の 2 日
 間にわたり，開催いたします。本研修会・講習会の開催要領・参
 加申し込みについては下記の
 とおりです。多数のご参加をお待ちしております。

記

1. 課 題
 (1)支部研修会：『農村地域における地域資源の保全と活用につ
 いて』
 (2)地方講習会：『土地改良事業設計指針「ため池整備」の解説』，
 『環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計
 の技術指針』の解説』，『農業農村整備事業における景観設

計の手引き」の解説』

2. 日時

- (1) 支部研修会：平成 18 年 11 月 15 日（水）
- (2) 地方講習会：平成 18 年 11 月 16 日（木）

3. 場所

松山市男女共同参画推進センター（愛称：コムズ）
〒790 0003 愛媛県松山市三番町六丁目 4 番地 20
☎089 943 5776 FAX 089 943 0460

4. プログラム

- 11月15日（水） 支部研修会
- 「農村地域における地域資源の保全と活用について」
9：30～ 受付開始
10：30～10：50 開会あいさつ
11：00～12：00 「農村地域における環境資源」
愛媛大学農学部 教授 櫻井 雄二
12：00～13：00 [昼 食]
13：00～13：50 「農地・水・環境向上対策について」
農村振興局地域整備課
農地・水・環境保全向上対策室課長補佐 山村 研吾
13：50～14：50 「地域を動かすバイオマス利活用」
農村工学研究所 資源循環システム研究チーム長 柚山 義人
14：50～15：10 [休 憩]
15：10～16：00 「地域用水機能増進事業活動事例」
道前平野土地改良区 工務課工務係長 徳永 耕治
16：00～16：50 「町並から村並へ、そして山並へ」
内子町産業建設課産業振興班長 久保 義雄
16：50～17：00 閉会あいさつ
- 11月16日（木） 地方講習会

『土地改良事業設計指針「ため池整備」の解説』、『環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針』の解説』、『農業農村整備事業における景観設計の手引き』の解説』

- 9：30 受付開始
- 10：00 開会
上記テーマに関しての講習会を予定
- 15：20 閉会
支部研修については講師の都合により、スケジュール等を変更する場合があります。

また、講習会の講師については調整中であり、来月号に詳細を掲載予定です。

5. 参加費等

- (1) 支部研修会

区分	参加費	昼食代	合計
会 員	2,000 円	1,000 円	3,000 円
非会員	3,000 円	1,000 円	3,000 円

(2) 地方講習会

区分	参加費	昼食代	合計
会 員	3,000 円	1,000 円	4,000 円
非会員	3,000 円	1,000 円	5,000 円

6. 問合せ先

愛媛県農林水産部農業振興局農地整備課設計係
関谷，門田，大塚
〒790 8570 愛媛県松山市一番町 4 丁目 4 2
☎089 912 2540（直通） 089 941 2111（代表）
FAX 089 921 9579
E mail：sekiya-katsuji@pref.ehime.jp

7. 参加申込方法

- (1) 申込書 所定の申込様式により所属機関ごとに取りまとめ、お申し込み下さい。
- (2) 申込締切日 平成 18 年 10 月 10 日（火）
- (3) 参加費の納入方法 参加申込と同時に次の銀行口座に全額前納をお願いします。
なお、振込後の参加費用等の返還には応じられませんのでご注意ください。

【申込様式】

中国四国支部研修会・地方講習会参加申込書

所属機関 _____

所在地（〒 _____）

連絡者氏名 _____

TEL _____ FAX _____

所属	氏名	会員区分	【15日】	【15日】	【16日】	【16日】	合計 (円)	農業土木 技術者継続 教育機構 個人会員
			支部研修会 2,000 円 (3,000 円)	昼食代 1,000 円	地方講習会 3,000 円 (4,000 円)	昼食代 1,000 円		
計		会員 非会員	人 人	人	人	人	円	

注) 出席および必要な場合は 印、欠席および不要な場合は×印をご記入下さい。(): 非会員

農業土木技術者継続教育機構の個人会員の方は右端の欄に 印をご記入下さい。

振込手数料については、振込人負担をお願いします。

【振込口座】 振込先 愛媛銀行 県庁支店

口座番号 普通 0576833

口座名称 支部研修会 地方講習会

実行委員会 関谷克二

(4) 参加申込先

愛媛県農林水産部農業振興局農地整備課設計係
関谷，門田，大塚
〒790 8570 愛媛県松山市一番町 4 丁目 4 2

☎089 912 2540 (直通) 089 941 2111 (代表)

FAX 089 921 9579

E mail : sekiya-katsuji@pref.ehime.jp

(5)参加費内訳

内訳費目		テキスト代	会場借上げ代等	計
研修会	会員	1,500円	500円	2,000円
	非会員	1,500円	1,500円	3,000円
講習会	会員	2,000円	1,000円	3,000円
	非会員	2,000円	2,000円	4,000円

8. 宿泊案内

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自でお申込み下さい。

9. 交通アクセスご案内

JR 松山駅より 徒歩約 10 分

松山空港より 車約 20 分

当施設には会議用の駐車場はありませんので、車での来場は御遠慮願います。

九州支部第 29 回地方講習会・第 37 回支部研修会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 演題

- 1) 地方講習会 「土地改良事業設計指針」の解説など
- 2) 支部研修会 これからの農村づくりについて

2. 日時

- 1) 地方講習会 平成 18 年 10 月 11 日(水) 12:45~17:00
- 2) 支部研修会 平成 18 年 10 月 12 日(木) 9:00~11:45

3. 場所

佐賀市 アバンセ(佐賀県立女性センター・佐賀県立生涯学習センター)1F ホール
〒840 0815 佐賀県佐賀市天神三丁目 2 11 どんどんの森内

☎0952 26 0011 FAX 0952 25 5591

4. プログラム

- 10月11日(水)地方講習会
12:45~13:15 受付
13:15~13:25 開会あいさつ
九州支部長(宮崎大学農学部教授) 秋吉 康弘
- 13:25~13:35 歓迎あいさつ
佐賀県県土づくり本部副本部長 牟田 香
- 13:35~14:35 土地改良事業計画設計指針「ため池整備」の解説
農林水産省農村振興局設計課課長補佐 瀬戸 太郎
- 14:35~14:55 休憩
14:55~15:55 農業農村整備事業におけるアスベスト(石綿)対応マニュアル(仮称)の解説
農林水産省農村振興局設計課課長補佐 金光 譲二
- 15:55~16:55 「農業農村整備事業における景観配慮の手引き」の解説
農林水産省農村振興局事業計画課課長補佐 鈴木 孝文
- 16:55~17:00 閉会

10月12日(木)支部研修会

9:00~9:15 受付

9:15~9:20 開会あいさつ

九州支部長(宮崎大学農学部教授)

秋吉 康弘

9:20~10:10 (仮称)田舎暮らしから学ぶ農村地域の活性化について

炭焼・養鶏業

小野寺 睦

10:10~11:40 (仮称)集落点検を通じた地域の再生方針について

熊本大学文学部教授

徳野 貞雄

11:40~11:45 閉会

5. 参加費用

学会会員 講習会...4,000円 研修会...2,000円

非会員 講習会...5,000円 研修会...3,000円

6. 申込み方法

1) 申込み先

農業土木学会九州支部講習会・研修会運営事務局

(事務局長 平川貴)

佐賀県 県土づくり本部 農山漁村課 計画調整担当

中村・重富

〒840 8570 佐賀県佐賀市城内一丁目 1 59

☎0952 25 7124 FAX 0952 25 7284

Email nakamura-yoshimitsu@pref.saga.lg.jp

Email shigedomi-kazuhiro@pref.saga.lg.jp

2) 申込み期限

平成 18 年 8 月 31 日(木)定員になり次第締め切ります。

3) 申込み様式

(http://www.geocities.jp/nougyou_doboku_94/からダウンロードできます。)

7. 宿泊・昼食

宿泊・昼食の申込みは、各自でお願いします。

なお、佐賀観光協会のホームページ(<http://www7.ocn.ne.jp/~s-kanko/>)に宿泊場所等が掲載されておりますので、お知らせします。

平成 18 年度九州支部講演会 (第 87 回) ・シンポジウム開催について (第 2 報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 日時

平成 18 年 10 月 24 日 (火) 9:30~17:00

2. 会場

ウェルシティ宮崎 (宮崎厚生年金会館)

〒880 0879 宮崎市宮崎駅東 1 丁目 2 番 8 号

☎0985 23 3311 FAX 0985 23 5823

http://www.kjp.or.jp/hp_37/

・JR 宮崎駅 (日豊本線) 下車, 東口より徒歩 3 分。

・宮崎空港駅から宮崎駅まで 12 分。空港より車で 25 分。

(1) 受付 9:00~9:30

(2) 開会式 9:30~10:20 霧島の間

(3) 講演会 10:30~17:00

第 1 会場 霧島の間

第 2 会場 関之尾の間

第 3 会場 雲海の間 (15:00~17:00)シンポジウム

3. シンポジウムについて (プログラム)

課題「九州と沖縄における水と土に関する諸問題」

(1)「σモデルによる沿岸浅海域バロクリニック場の水環境シミュレーション」

九州大学大学院生物資源環境科学府 紙屋 雅雄

(2)「粘土ライナーによる鉛の吸着特性とその浸出予測」(仮題)

九州大学大学院生物資源環境科学府 山岡 伸也

(3)「未定」

鹿児島大学大学院連合農学研究科博士課程 石谷 哲寛

(4)「農村地域の水環境改善を考慮した営農計画の策定に関する研究」(仮題)

九州大学大学院生物資源環境科学府 阿南 光政

(5)「未定」

鹿児島大学大学院連合農学研究科博士課程 仲村 渠将

4. ポスターセッション

近年,九州支部講演会においては,学生会員の講演件数が増加しています。また平成 13 年度からは,シンポジウムを支部講演会と同時に開催し,内容の充実を図っています。

したがって,1 課題当たりの講演時間を確保し,プログラムの編成を容易にするために昨年度に引続き口頭発表に加えてポスター発表を企画しております。このポスター発表は,研究の背景や成果および将来への展望などを発表者と参加者が 1 対 1 の差し向かいで討議できるという口頭発表では実現しがたい特徴を備えています。特によく準備されたポスターとプレゼンテーションは,参加者に感銘と刺激を与えるなど,実り多い討論をもたらすことが期待されます。

本年度も,原則として学生会員(学生部・研究生・大学院修士)

を対象に募集します。なおポスターセッションは,会場のスペースの関係で発表者の制限を設ける場合がありますのでご了解下さい。また発表者の中からポスター賞を若干名授与します。

(1)申込締切 9月8日(金)

(2)申込先 公演申込先と同じ

(3)枚数 1 課題 A3 版 2 枚以内

(4)その他 ポスターは,講演会の開会式終了までに本人の責任で所定の位置に掲示して下さい。

5. 講演会参加費

5,500 円(講演集代 4,500 円,昼食代 1,000 円)

6. 現地見学会

(1)日時 平成 18 年 10 月 25 日(水)8:30~16:00

(2)集合場所 宮崎駅前

(3)会費 7,000 円(バス代経費 5,000 円,資料代 1,000 円,昼食代 1,000 円)

(4)予定コース

出発 宮崎駅 8:30 9:30 下川原地区(県ほ事業)

10:00 10:30 木之川内ダム(国営)11:00 12:

10 昼食(綾町 酒仙の杜)13:10 13:40 飯田地区(県

営経営体事業)14:10 14:50 宮崎県総合農業試験場

15:30 16:00 宮崎駅(降車) 16:30 宮崎空港(解

散)

7. 講演申込み

(1)申込み方法 講演希望者は,演題・氏名・勤務先・所属を明記のうえ,「12 事務局」にお申し込み下さい。

(2)申し込み締切り 平成 18 年 8 月 31 日(木)

(3)投稿要領 図・表・写真等を含めて,1 題につき 2 ページまたは 4 ページとし 3 ページや 5 ページ以上の原稿,また投稿要領に従っていない原稿は受け付けません。

(4)講演時間 15 分程度(質問・交代時間を含む)

(5)投稿締切り 平成 18 年 9 月 8 日(金)

(6)投稿先 〒889 2192 宮崎市学園木花台西 1 1

宮崎大学農学部 稲垣 仁根 宛

TEL&FAX 0985 58 7239

E mail: a03221 u@cc.miyazaki u.ac.jp

(7)原稿の書き方 学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) をご覧下さい。

8. 宿泊のご案内(学会ホームページ参照)

9. お申込み方法(学会ホームページ参加申込書をダウンロードして下さい。)

FAX または郵送の場合,申込書に必要事項をご記入の上,『JTB 九州宮崎支店』宛にお送り下さい。

電話によるお申込みは誤手配等のトラブルの原因になりますので、ご遠慮下さい。

変更や取消・追加についても必ず書面にてご連絡下さい。(申込書の控えを必ず保管して下さい)

お申込み締切日：2006年 9月 8日(金)必着

原則としてお申込み順に手配を致しますので、できるだけお早めにお申込み下さい。

締切日直前のお申込みについては、手配の都合上ご回答が遅くなる場合がございます。

10. クーボンの送付並びにお支払方法について

宿泊確認証・請求書等は講演会の2週間前頃郵送にてお送りする予定です。

ご宿泊日の1週間前になりましても当社からの書面が到着しない場合は、お手数ですが当社担当までご連絡下さい。(申込書の未着や、当社からの送付物の誤配送も考えられます)

ご利用代金は請求書に記載の指定日までに当社銀行口座へお振込み下さいますようお願い致します。

尚、振込手数料はお客様の負担にてお願い致します。

11. 取消・変更

(1)講演会要旨集、現地学会等の申込取消につきましては14日前までとし、以降の払い戻しはいたしません。

(2)宿泊の取消につきましては、1件1名につき下記の取消料を申し受けます。

	14日前	13日前~4日前	3日前~前日	当日
宿 泊	無料	30%	50%	100%
昼 食	無料	無料	100%	100%

12. 事務局

宮崎県農政水産部農村計画課(農業土木学会九州支部講演会事務局)

場所：〒880 8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号

(☎0985 26 7165(直), FAX 0985 26 7343)

担 当：図師、徳丸(E Mail: tokumaru-manabu@pref.miyazaki.lg.jp)

13. 講演会に関する申込先

JTB九州宮崎支店

『平成18年度 農業土木学会九州支部講演会(87回)・シンポジウム』係 担当：熊一・後藤・日高

〒880 0805 宮崎市橘通東4-7-28

☎0985 29 3511 FAX 0985 27 1124

営業時間：月~金 10:00~18:00 土 10:00~12:30

(日曜、祭日休業)

平成18年度農村道路研究会研究集会および現地研修会のお知らせ

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成18年度 農業土木学会農村道路研究会及び現地見学会を福井県敦賀市で開催いたします。多くの方々の参加をお待ちしています。

1. 主催：農業土木学会農村道路研究会

2. 日時

【研究集会】

平成18年11月1日(水) 13:00~17:00

【現地見学会】

平成18年11月2日(木) 9:00~13:00

3. 場所

【研究集会】 プラザ万象(敦賀市)

〒914 0047 敦賀市東洋町1番1号

☎0770 22 9711

【現地見学会】

福井県嶺南振興局管内広域営農団地

農道整備事業

4. 内容

【研究集会】(平成18/年11月1日)

13:00~13:05: 会務報告

13:05~14:45: 基調講演

『トンネルの設計と施工に関する諸問題(仮)』

15:15~16:30:

技術報告『若狭工区のトンネル施工』

16:30~17:00: 質疑

【現地研修会】(平成18年11月2日)

『広域営農団地農道整備事業若狭工区』

5. 参加費

【研究集会】 未定

【現地研修会】 未定

6. 宿泊施設の案内

インターネットで検索いただきたい。

詳細は次号に掲載します。